



ニホンザル、関

# わいるとらいふ

## Wildlife

### No.29

2012年12月25日

NPO法人 宮崎野生動物研究会

Miyazaki Wildlife Research Group

## 2012年度アカウミガメ上陸状況詳細報告

2012年度のアカウミガメ上陸産卵の詳細い結果が出ましたので報告します。前号でもお伝えしたとおり、今年のアカウミガメの上陸産卵回数は過去最高の数字の上陸2,873回、産卵1,792回となりました。4年前の2008年に過去最高の上陸産卵回数(上陸2,480回、産卵1,467回)を記録したのですが、それをも大きく上回る数となりました。この理由の特定は難しいですが、保護調査活動に携わっている私たちにとっては、長年続けてきた保護調査活動が着実に実を結んでいると信じたいところです。

今年は数字の上では過去最高の産卵数を記録しました。しかし、宮崎の海岸は侵食の危機に引き続き直面しており、楽観視できない状況が続いています。海岸によっては、アカウミガメに産み落とされた卵の多くが、侵食のために孵化することなく流出してしまいました。私たちは流出する

おそれのある卵を、少し高台の場所に移植していますが、労力的にすべての卵を移植することは不可能です。また、産卵後ある一定の時間が経過した卵は、動かす(移植する)ことで逆に卵に悪影響を及ぼしてしまうことが報告されています。

私たちはアカウミガメ保護調査活動を、宮崎の海岸にいつまでも多くのアカウミガメが上陸産卵し、多くの子ガメが太平洋の海原に旅立っていくことを願いながら行っています。そのためにはアカウミガメとその卵にどう接することが最善の方法なのか、アカウミガメの産卵場となる宮崎の海岸を健全なまま次の世代へ引き継ぐためにはどうすればよいのか。私たち研究会メンバーの中でも常に議論を行いながら、これからもアカウミガメと宮崎の海岸にとってよりよい保護調査活動を続けていきたいと考えております。

	上陸回数	産卵回数	産卵率	移植巣数	移植卵数	標識数	前年上陸数	上陸前年比
堀之内	219	133	61 %	68	—	0	123	+96
新富北	389	302	78 %	91	10,068	0	221	+168
新富南	493	403	82 %	100	10,825	0	187	+306
一ツ瀬南	101	86	85 %	0	0	0	46	+55
大炊田	269	145	54 %	5	360	35	115	+154
明神山	500	250	50 %	83	9,174	25	300	+200
住吉	189	61	32 %	6	659	20	84	+105
一ツ葉	64	56	88 %	7	704	0	55	+9
人工ビーチ	18	15	83 %	7	778	0	6	+12
大淀川	2	1	50 %	0	0	0	3	-1
空港北	56	50	89 %	7	735	0	16	+40
松崎	229	119	52 %	2	198	12	91	+138
運動公園	160	60	38 %	8	803	14	57	+103
こどものくに	143	78	55 %	10	1,128	20	44	+99
白浜	41	33	80 %	1	43	0	3	+38
全体	2873	1792	62 %	391	14,582	126	1351	+1522

## 第1回 宮崎野生動物研究会写真コンクール

9月5日、ウミガメ調査報告会にて「第1回宮崎野生動物研究会写真コンクール」を開催しました。  
たくさんのご参加、ありがとうございました。

コンクールの結果、及び入賞した作品をご紹介します。

### 金賞



タイトル：明神山海岸にイシガメ現れる！

長友 宏子

コメント：「このユーモアがみんな分かるかな？」この写真を撮影した時に児玉さんがおっしゃった一言です。児玉さんが計測しているものをよくご覧ください。児玉さんからのメッセージが隠されていますよ。

### 銀賞



タイトル：卵みつけ！！

山田 真太郎

### 銅賞



タイトル：只今産卵中

中島 義人

### 佳作



タイトル：ウミガメの卵に  
見入る子供たち  
竹下 完



タイトル：大糞塊、キタアアアアー！  
岩切 康二



タイトル：やりすぎた  
お母さん(カメ)  
古中 隆裕

## 動物園の台所

コスモスが乱れ咲き、さわやかな秋風がそよぐころになると、動物園の動物たちも一斉に胃袋の調子良くなるのか、それともこれから迎える厳しい冬の寒さに備えるためか、彼らの食欲は一挙に増進してきます。私たちもおいしそうに食べる動物たちの姿を見ていると頼もしくなります。そこで動物園の大食漢は誰だろう…。もちろん1日に必要な絶対量から考えると、体の大きい動物が一番沢山たべるのが当然のこと。ゾウやキリン、ラクダなどは横綱格です。中でもゾウに軍配があがります。5才にもなると体重500kgになり1日のエサの量は草150kg、それに根菜類やパン、おからなど100kgは簡単に平らげてしまいます。もちろんこれだけの量を食べるのだから、1日ばかりで食事をします。そのほか、ライオンやトラのような肉食動物、野菜・果物を主食にするサル類達も食欲は旺盛になります。飼育係は食欲の出るのはいいのですが、つい沢山与えると今度は太りすぎになるのが心配で目が離せません。他人のものまで取って食べるからです。野生の動物たちは比較的スマートですが、野生動物でも動物園で飼育されると、どうしても太り気味になります。それは狭い檻の中で、栄養価の高い食事をとっても運動が出来ないからです。うっかりすると、年齢とともに脂肪がつき、出っ張ってくる腹をへこますのにひと苦労します。中年太りは人間社会でも大変ですが、動物たちにも出現します。太るだけならいいのですが、脂肪の取りすぎで糖尿病になることも多く、寿命を縮めることになるので一番心配です。中でも中年太りになる動物は類人猿に多く見られ、

特にオランウータンは平常からあまり動かないので止まり木などを工夫して運動するように心がけています。でも、本来怠け者の彼らはすぐに肥満体になります。オランウータンは太りすぎが原因でぽっくり病を引き起こすこともあります。またクマや、タヌキなども太りやすい仲間で、子供の時はスマートでも高齢化するほどその傾向が現れます。動物園では冬眠の必要もないのに10数センチの皮下脂肪がつき、体重も増えます。猛獣なども4・5才になると太りすぎでお腹が垂れ下がり、不格好となり「ああ、お父さんのようだ」とからかわれている飼育係もダイエットに苦労しますが、なかなか効果が現れません。

ところが動物によっては、脂肪のつきにくいものもあります。大食の割にゾウやラクダなどは皮下に脂肪を蓄えて冬の寒さを乗り越えるので、春が来るとスマートに変身します。ところが、暖房のあるところでおいしいものばかり食べているサル類は、全身に脂肪がつき繁殖も悪くなるし、と言って急に餌を少なくすると今度はやせはじめ、太らすのに苦労するのですから、食生活の管理も一律でなく個体の特性に応じて食事管理が必要で、食欲の秋も決して嬉しいことばかりではないのです。 竹下 完



## 新富海岸に揚がった オガワコマッコウクジラの子？・・・



8月27日(月) 15:00 カメ保護支援者より浜にイルカ？が打ち上がっているのので援けてほしい。との連絡を受けました。海岸に着くと砂浜まで打ち上げられた体長約2.5m位で嘴のないクジラがいました。動きが無く目を閉じ一刻を争う状態でした。通報者の西野さんと町の文化財担当者と3人でカメ救出用のビニールシートに載せ、波打ち際まで必死に引き摺り、途中シートの下に潜り込んだ海水の浮力の助けもあり、全身、ずぶ濡れになりながらも漸く無事に海に戻すことができました。前後して通報を受けた町役場職員ほか5名以上の応援隊もカメラ共々到着しましたが、残念ながら間に合わず写真は撮れませんでした。しかし、今回の救出劇では、第一発見者の海岸散歩中のお婆ちゃんから次々と伝言ゲームよろしく情報が伝わり多くの協力者の存在を改めて確認することになりました。また打ち上げられた流木等の漂着ごみの海岸清掃には町内のスポーツ少年団員・サーファーをはじめ400名を超す大勢の参加者を得て3回も実施されました。こうした多くの人たちに見守られる新富のアカウミガメは、本当に幸せ者です。写真を見た研究会員の末吉・福島様からは早速「宮崎でよくストラディンクするオガワコマッコウでは？」とご教示いただき、町内の遊漁船の方からは沖ではよく釣り中に突然き上がるアカウミガメとイルカと違う嘴のない小型の「クジラ」を見ることがありますよ。と情報をいただきました。

(写真は、西野さんの携帯で撮影されたもの。)

有田 辰美

## ウミガメ調査に参加して

ある日、何となく聞いたことのある「ウミガメ」が気になり「ウミガメ・産卵・宮崎」と検索すると「宮崎野生動物研究会」のホームページと出会いました。賛助会員はウミガメの見学が出来て、今年は上陸が多いとのこと。早速、賛助会員になり、住吉海岸、大炊田海岸でウミガメの調査に同行し見学させていただきました。幸いウミガメの産卵に遭遇し感激しました。

母に「ウミガメが住吉海岸にいるよ」と話すと、住吉で育った母は「住吉海岸で遠足や、運動会で綱引きをしたよ。」住吉の浜で運動会？綱引き？初めて聞く話に驚きです。母にとっては住吉の浜は、一面黄色い花で覆われたルピナス畑、グチ釣り、家族総出の大潮のまいこ貝とり、幼少期を過ごした大切な浜だと話してくれました。数年前に住吉の浜を見たとき、浜が無くなり「ここが住吉の浜？」と目を疑うほど変わっていたようです。母の話を聞き、変わっていく砂浜に来てくれる「ウミガメ」との出会い、砂浜の保護の大切さを感じました。「ウミガメ」と出会ってからいろいろな場所で「ウミガメは今夜も浜に上陸、産卵しているよ。宮崎はすごい！」と熱く語っています。野生研の皆さん丁寧な説明案内有り難うございました。

窪 かおり



## 児玉さんを偲んで…

7月23日、長年宮崎野生動物研究会にご貢献くださいました、児玉純一事務局長が亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

### 児玉純一さんを偲ぶ

「やあお早う、元気ですか、今から山に行こうや」と突然尋ねてくるのが児玉純一さんでした。

私と児玉さんとは仕事の上でも切り離せない関係でしたが、ウミガメの保護活動から宮崎県内の野生動物保護活動、調査研究の企画から保護活動、啓発活動にと、それにNPO法人の設立から運営について活動してきましたが、彼のずば抜けた能力と的確な判断力はすばらしいものがありました。特に経理運営については彼に全部お願いしていました。それだけにまるで片腕をもぎ取られた思いがしました。もう一つ、私にとって彼は命の恩人でもあるのです。平成12年、私は後縦靭帯骨化症という難病で突然倒れました。手足が動かず歩くことも立つことも出来なくなったことがありました。薬もなく手術のみが唯一の治療法でした。それも頸椎を切開し靭帯と神経の隙間を作るといふかなりな高度な難手術でした。幸いにも潤和会記念病院の米山匠先生によって手術は無事成功しました。それも2週間という早さで退院しましたが、まだ自由に動くことは出来ない毎日で首にはコルセットをはめ毎日のリハビリでうとうとしい日々でしたが、そんな時、家から連れ出し山に行き、クマタカやサルなど観察に連れていってくれたのが児玉さんでした。不思議なことに大自然に触れていると気分が良くなり手術のこともわすれて体調は急速に回復しました。お医者さんまでが奇跡だといってくれました。それは児玉さんの優しい思いやりでした。そんなことで山にはよく同行しましたが、またウミガメ大会などで各地を回ったのも忘れられません。私一人では出来ないことでした。そして野生動物研究会が朝日新聞社賞を受賞することが出来て2人で授賞式に同行したのは忘れられない思い出のひとつです。野生研はそんな環境活動を続けて40年になります。これからと言うときに、突然の事件に大きなショックを受けましたが彼は必ず奇跡が起こり回復すると信じていました。でも神のいたずらか残念ながら今回は奇跡が起きませんでした。彼のためにもまだまだ頑張らなければと思います。いろいろと有り難うございました。君との思い出は一生忘れないでしょう。

どうぞ安らかに眠って下さい。

竹下 完



### 拝啓、児玉純一さま

貴殿との付き合い始めは、約30年前、中島さんに山登りや調査に長けた好青年がいると紹介され、それをきっかけに知り合いとなり、その後はいろいろな調査や遊びに兄とも、師匠とも慕いながら、最高の友人として付き合いをさせてもらいました。そしてこの付き合いは永遠に続くものと思って疑うことはありませんでした。少なくとも今回の出来事までは…。

カムリウミスズメの調査では、当初から常に行動を共にしていろいろ助けてもらいました。カモシカ調査では、尾鈴山での学生転落事故に対しておろおろする我々を前に素早い対応とその行動力は見事でした。カメ調査では、砂にめり込んだ車の救出に文句を言いながらも一生懸命救出していました。川遊びにはまりアユ獲りや、川船の櫓や竿の使い方、カヌーのパドル使いを教えてもら



いました。などなど思い出は尽きませんが、貴殿はあまりにも他人の事を優先し、自分の身体を顧みなかったように思います。今年初めに健康診断の事を私に尋ねられましたよね、その時受診することをもっと強く勧めるべきだったと悔やまれます。これからはもっと一緒に遊びまわる予定だったのに、非常に残念です。 敬具 中村 豊

## 児玉さんの思い出

最初に会ったところ、とにかく野外の活動や業務に強い人だな、というのが第一印象でした。シロアリ関係の会社をやっていたこともあるかと思いますが、大学のころ、相当あちこちを探検して回っていたということは、最後の別れの会の時に初めて知ったことでした。愛用の様々な野外装備・グッズを見て本格的だとは思っていたのですが、児玉さんのそのような来歴は全く知りませんでした。かくも、児玉さんは自分のことは話さない人だったと言えます。



もう一つは、責任感が強く、やらなければならないと決めたことは、万難を排してやるという人柄だということです。宮崎野生動物研究会の法人化、事務局の切り盛り、カメ調査やカモシカ調査の運営・管理等、完璧にこなしてきました。このようにできる人だからこそ、どんどん多くのことを引き受け、結構過労な状態になったのだらうと、推察しています。

最後の感想ですが、ポリシーのある人だったということです。別れの会でも話しましたが、車での調査では必ずスコップをもってきていました。私なら、道が壊れてだめだから、すぐ引き返そうと決める所、児玉さんはやおら車から降りて自分で道を直し始めるのです。ちょっとこんな人はいません。また、カモシカ等の調査地に行く際には、多少時間や労力がかかっても、必ずそこに行き着いて調査をし、帰ってきていました。

このような一本筋が入った生き方をした仲間をなくしたことは、私たち研究会にとってとても残念なことです。しかし、太く短く生きた児玉さんの強烈な印象は、私たち宮崎野生動物研究会員の記憶から決して消えるものではありません。児玉さん、有難うございました。 岩本 俊孝

## 児玉さんを偲んで

「康二君、あんたカメもやらんね？」私は児玉さんからのこの言葉がきっかけで、宮崎野生動物研究会に入ることになった。今からちょうど 12 年前、私が青年海外協力隊を終えて宮崎に戻ってきたばかりで、たまたま親父が参加していた鳥の調査に付いていったときのことだった。それから私は宮崎の野生動物の世界にどっぷりと浸かり込み、児玉さんにはいろいろな野生動物の調査に連れて行ってもらった。

アカウミガメ調査では卵を真っ先に見つけ、そして、小笠原での仕事を終えて最終便の飛行機で宮崎に帰ってきた日でも家に戻らずカメの調査に来てくれた。カモシカ調査ではカモシカを目撃し（今回の調査では児玉さんだけ！）、そして、岩場に阻まれて動けなくなったメンバーに救出のロープを差し出していた。イヌワシやクマタカの調査では 3km 先の鳥を肉眼で見つけ、そして、誰も行ったことがないような林道を先導してくれた。外国に行って来てもあまり自慢げに海外の話はせず、



「これやるわ」と洒落たお土産を渡してくれた。本当に頼りがいのある先輩で、そして自分たちのような若造にも友人のように接してくれた。

2012年7月5日、竹下会長から児玉さんが倒れたとの連絡があった。信じられなかったし、信じたくなかった。それから、自分は児玉さんの回復を神様に祈ることしかできなかったが、その想いは通じなかった。

児玉さん、もっといろんな場所に一緒に行きたかったです！向こうの世界では自由にいろんな場所に行けていますか？心よりご冥福をお祈りいたします。 岩切 康二

世界中で宮崎だけ

『サダマイマイ』



### 名前の由来

サダマイマイは昭和10年に大宮中学校（現大宮高校）教諭の外山定実（栗原定実）氏が宮崎市の双石山で粘菌の採集をしていて見つけたもので、発見者の名前「定実」が学名（*Satsuma sadamii*）にも和名にも付けられています。

### カタツムリ界のクニマス

昭和10年の発見以来、多くの方が採集を試みましたが誰一人生きたものを採集することが出来ませんでした。やっと昭和50年に40年ぶりに生きたものを見つけることができました。

### とても珍しい種です

サダマイマイは生きたものは、ほとんど見つけれない数の少ない種類です。昨年は10年ぶりくらいに生きたものに出会えました。

### 宮崎県固有の種です

サダマイマイは世界中で宮崎県でしか生息が確認されていない、宮崎県の固有種です。宮崎県を代表するカタツムリで、基準産地は宮崎市双石山です。

西 邦雄

## オウムガイ



長友 宏子

海岸の漂着物の中から気に入った物を探すビーチコーミングは、大学時代から十数年間を過ごした沖縄で覚えた趣味の一つです。これまで宮崎県内や南西諸島の海岸を歩いて見つけた珍しい漂着物には、アオウミガメ、ミズナギドリの仲間、ウミヘビの仲間、オウムガイ、モダマ（マメ科植物の種子）などがあります。珍しい漂着物を見つけると心躍りますが、特にオウムガイの殻を見つけた時の喜びはひとしおでした。

オウムガイは南太平洋からオーストラリア近海の水深100～600mに生息する軟体動物の頭足類で、イカやタコの仲間です。殻を持つという原始的な特徴を残しているため、生きた化石とも呼ばれています。私自身、過去に沖縄島と石垣島で計3個の殻を見つけていますが、宮崎県内の海岸でも何とか見つけたいという思いに駆られ、台風後や海が荒れて漂着物が大量に流れ着く際には、県内のあちこちの海岸に出向いて探し回ることになります。探し求める漂着物を手にした時、海流に乗って何千kmも旅をしてきたのかと思うと感慨深いものがあります。

次は、西田 伸さんをお願いします。



## 野生研のあしあと

- 8/7 仔ガメのふ化観察会 賛助会員参加 20名  
石崎浜 案内：小豆野・竹下
- 8/12 仔ガメふ化の観察会 広瀬地域作り協議会  
参加 40名 石崎浜 案内：小豆野
- 8/18～20 カモシカ調査（椎葉村方面）  
白岩山・扇山・国見岳・烏帽子岳など
- 8/21 野生研 8月例会 大宮青少年プラザ
- 8/27 宮崎県野生動植物保護監視研修会  
（県庁7号館）参加：竹下
- 9/5 24年度ウミガメ調査報告会と懇親会  
（花月亭）37名参加
- 9/15～17 カモシカ調査（高千穂町）  
親父山・愛宕山・玄武山・赤川浦岳など
- 9/18 野生研 9月例会（大宮青少年プラザ）
- 9/29 宮崎市環境企画課主催 環境講座講演会  
西 邦雄「カタツムリや貝を調べ  
宮崎の自然を調べる」  
竹下 完「ウミガメから学ぶこと」
- 10/6～8 カモシカ調査（日之影町方面）  
比叡山・見立周辺・鹿川周辺など
- 10/16 野生研 10月例会（大宮青少年プラザ）
- 10/21 新富町富田浜海岸清掃と講演会（主催福井  
石油・後援FMラジオ）海岸清掃約 250名参加。  
清掃作業後ウミガメの話  
講師：竹下・根井・有田
- 11/3～4 カモシカ調査 大崩山周辺
- 11/9 講演 潮見小学校 4年生  
ウミガメの生態と保護活動 講師：竹下
- 11/20 野生研 11月例会（大宮青少年プラザ）
- 11/23～25 カモシカ調査  
延岡市・日向市・美郷町方面
- 11/30～12/2 日本ウミガメ大会志布志会議

## 動物記録

- 8/19 県指定天然記念物 アカウミガメ産卵数  
が最多 保護活動の成果か！  
【宮崎日日新聞】
- 8/29 環境省レッドリスト改訂 ニホンカワウ  
ソと九州のツキノワギマ絶滅 ハマグリ  
も絶滅危惧 2種に新規登録【宮崎日日新聞】
- 9/14 ウナギ 絶滅危惧種 乱獲で個体数減少  
【朝日新聞】
- 9/21 幸島 ボスザル交代 11年ぶり  
【宮崎日日新聞】
- 9/23 山梨で生息確認クニマス  
「野生絶滅」に指定へ 【宮崎日日新聞】
- 10/7 アライグマか？宮崎神宮受難  
国文化財柱にひっかき傷多数【朝日新聞】
- 10/9 山中教授（京大）ノーベル賞 日本人 19  
人目 IPS 細胞を開発 医学生理学賞 25  
年ぶり 【宮崎日日新聞】
- 10/14 ニシタチにサル ビル“はしご”御用  
【宮崎日日新聞】
- 11/3 ウナギ全面禁漁へ 資源保護毎年 10～  
12月 県民意見聞き年内適用も  
【夕刊デイリー】

## 編集後記

2012年も残すところあとわずかとなりました。

今年はウミガメの上陸数最多!!という喜びと、  
児玉事務局長との別れ…という悲しみが  
記憶に残る一年となりました。

来年も皆さんと一緒に、野生動物研究会を盛  
り上げていけたらと思います。

よろしくお祈りします。 古根村



宮崎野生動物研究会通信「わいるどらいふ」 No.29 2012年12月25日発行

特定非営利活動法人

宮崎野生動物研究会 (Miyazaki Wildlife Research Group)

代表 竹下 完

880-0825 宮崎市東大宮3丁目9-11

Tel 0985-25-7585 Fax 0985-25-7585

Email: kan-take@miyazaki-catv.ne.jp http://www.m-yaseiken.org



「わいるどらいふ」の無断引用、転載、複製を禁止します。

欄干動物記：カモシカ